

主任教授からのメッセージ

本講座は、他大学に比べやや女性比率が高いようです。外科系ではありますが、緊急手術はそれほど多くないことからワークライフバランスが比較的取りやすい診療科だと思います。ただ外科系であるがゆえにスキルを向上すること、産休や育休など、キャリア形成が難しい面もあると思っています。

出産を経験した教職員は、現在7名で、職場復帰しそれぞれのスタンスで働いています。当直は免除していますが、土曜日の診療や試験監督などの業務を分担してもらうなど、働き方は男女ともに絶えずブラッシュアップしています。

病院での役職、学会の理事などのポストへの女性の進出は道半ばで、長期にキャリア形成していく環境整備が必要と感じています。目の前の事象のみにとらわれず、焦らず、真摯に仕事ができるような環境作りに取り組んでいます。

周りに迷惑をかけてしまっていると思っている女性医師は多いと思います（私の妻もかつてはそうでした）。周囲のサポート、許容量など個人差があります。しかし、早退しても時短であっても、あなたのした（する）仕事は誰か（同僚・患者）を助けていることを忘れずに。

○ 診療科の特徴

耳鼻咽喉科・頭頸部外科では人間らしい生活をする上で重要な感覚器を含めた幅広い領域を対象としております。耳科領域、鼻科領域、頭頸部領域と大きく分けられますが、すべての領域の疾患を経験することで、あらゆる疾患に対応できる医師の育成を目標としています。一般的には病気の診断から治療（手術加療も含む）まで自科で完結できることも一つの特徴です。また、研究環境も充実しており、より高い専門性を追求することも可能です。

○ 診療科で働く女性医師

現在、耳鼻咽喉科・頭頸部外科には、44名の医師が在籍しています。うち、女性医師は13名在籍しており、附属病院では4名、香里病院では3名、総合医療センターでは2名、関連病院には4名の女性医師が勤務しています。これまでに、産休や育休を経て復帰し、日常診療から手術加療、研究まで幅広く活躍している先生も在籍しています。



➤ 職場復帰への取り組みについて

○ 復帰までの道のり

産前産後休暇、育児休暇に関しては各自の希望に沿った形で取得できます。育児休暇期間終了前に、どのような勤務形態で復帰するか相談し、各自の育児環境に合った働き方で復帰します。短時間勤務正職員制度の活用や、当直の免除など女性医師にとって働きやすい環境が整っています。

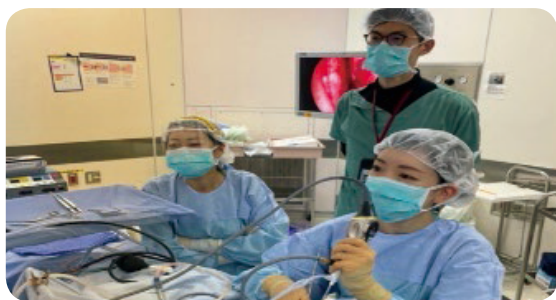
○ 研修内容

一般的には下記のような研修の目安があります。研修期間中に産休や育休を取得することがあれば、個々のペースにあった研修プランで復帰することが可能です。

	内容	指導下	独立
検査	超音波	1 か月	2 か月以降
	細胞診	1 か月	2 か月以降
手術	短時間の小手術	2～6 か月	7 か月以降
	鼻副鼻腔手術	7～12 か月	1 年以降
	中耳炎手術	7 か月以降	
	頭頸部手術	1 年以降	
外来	検査	1 か月	2 か月以降
	一般外来	1 か月	2 か月以降
	科別専門	1～6 か月	7 か月以降

○ 女性医師キャリア形成支援担当医師からのメッセージ

今までの女性医師の働き方として、出産、育児によってキャリアアップの目標を持ってなくなるようなイメージがあったかもしれません。現在、女性医師の増加や女性復帰支援に関する意識の向上により、働き方の多様化が進んでいます。仕事と家庭の両立という言葉がありますが、仕事の比重が軽くなるように、決められた時間内で効率よく働くことのできる環境作りに取り組んでいます。個々の育児環境に応じた働き方を選択し、些細な要望にも耳を傾け、復帰支援をより良いものにアップデートしていくことが大事だと考えています。



手術室の様子



頼りになる秘書さん達と



医局での様子



女医会での様子

▶ 復帰した医師の声

体験談 (A 先生)

耳鼻咽喉科に入局して3年目に結婚し、4年目で1人目の子供を妊娠しました。当然ながら、出産してからは生活が一変しました。出産後に専門医試験があり、慣れない育児と勉強のプレッシャーで大変な時期もありました。復帰後の子育てしながらの仕事は、今までのように時間を気にせず取り組めるわけではありません。職場の理解のもと、スキルアップのため手術にも携わらせてもらい、外来もこなし、同僚の先生からのサポートは本当にありがたいものでした。その後2

人目を出産し、2度目の産休育休を経て復帰しました。鈍ったであろう臨床や手術の勘が、ちゃんと戻るのかと不安になる暇もなく、現在は充実した日々を送っています。働き方は自分に無理のないペースですが、専門性を高めるために新たな分野の専門医試験を受けたり、学会活動も積極的に行っています。

子供がいるからこういうふうに働かないといけないとか、あれはできない、これはできないと自分で決めてしまうのはやめようと思っています。どこまで自分ができるのか未知の世界です。今は子育てのために自分のキャリアを諦める時代ではないですし、職場も女性が働きやすい環境が整いつつある状況です。少しずつでも自分のスキルアップ、キャリアアップができるように挑戦していきたいです。

日本口腔・咽頭科学会で
奨励賞を受賞しました。
学会活動も積極的に頑張
る気持ちです。



● 講座ホームページ 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座 <https://www7.kmu.ac.jp/ent/>